



「事業費1.4倍、650億円に」 下野新聞1面トップに!!



宇都宮民報

—発行—
日本共産党
宇都宮市委員会
弥生1丁目7-11
旭コーポ1階
TEL634-8722

政治協力の進める、
真実のたえ希望のこころ

しん 赤旗
ぶん ぶん

口 刊月 3497円
口 購年 930円

情報隠して 市長選挙か？

1月19日の下野新聞には、「LRT開業1年延期、事業費1.4倍、650億円に」という1面トップの大きな見出しが躍りました。朝日・毎日の新聞各社でも同様の記事が大きく報道されました。

朝日新聞では、用地の5%が未買収で佐藤市長は用地交渉の難航も認め、「1年は遅れる」との見通しを示したと

市長選挙からまだ2か月である。こんな重大なことをひた隠しにして「市民はLRTを認めた」などと燥ぐ(はしゃぐ)市長や推進勢力の、隠蔽と無責任さに強く抗議する。

市民への徹底的な情報公開と駅西側延伸計画は直ちに中止を求め、市民の血の出るような税金をなんと心得ているのか!!『LRTよりコロナ対策に税金を』この私たちの政策がますます輝き、重みを増してきているのではないか。

報じています。昨年11月の市長選挙では、事実上LRTの是非が争点となったが、わずか2か月後に、このような大きな変更が報じられることに、違和感を感じざるを得ません。

前市議でLRT問題連絡会副代表の荒川恒男さんから、次のような意見が寄せられました。



新型 コロナ

緊急事態宣言の下で 改めて考える!!

感染症対策

昨年末から年明けにかけて、新型コロナウイルス感染者が急増する中、市長による緊急事態宣言が発出されたのに続いて、栃木県が特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象区域となりました。

1月6日には、過去最多の77人の陽性を確認。

今日の感染急拡大は、菅政権の無為無策と逆行の結果です。そのうえ、今度は、十分な補償も示さず罰則と制裁を導入しようとする政府。そこで、あらためて感染症対策の基本を考えました。

コロナ禍の日本では、欧米に比べて患者数が少ないにもかかわらず、医療体制のひっ迫が深刻化しています。

何よりも感染者を減らすことが、病院の状況を改善させ経済を回復させることに繋がります。



今改めて感染症対策を考えます

- ① ワクチンによって免疫を獲得すること。
- ② 感染ルートを遮断すること。
- ③ ウイルスを保有する感染源を遠ざけること。

ワクチン効果はずっと先



ワクチンは接種が始まってから感染抑制の効果が出るまでに半年ほど時間がかかると言われている。現在進行中の危機を克服するには、他の対策を強化・実践するべきです。

感染経路遮断

手指消毒、マスク、3密回避、社会的距離の確保などが基本的な対策です。更に強い対策が人と人との接触機会を減らす社会的な行動制限です。

感染源は遠ざける

新型コロナウイルスの特徴は、無症状感染者もウイルスを排出し感染源となることです。これを発見・追跡・保護と隔離をすることが極めて重要です。

PCR検査は無症状感染者を発見する有効な手段です。特に急ぐべきは老人・医療施設への定期的な社会的検査です。そこでのクラスターを未然に防ぎ、更に市中の無症状感染者を発見するための面的検査も重要な要素となります。



核兵器禁止条約がいよいよ発効!! 1月22日

核兵器禁止条約発効

新春新署名街頭宣伝行動

日時 1月23日(土)
12:30~13:30

場所 宇都宮市二荒山神社前
交差点付近



署名セットやパネル、のぼり旗など手に持ってアピールできるものをご持参ください。感染防止対策をとってご参加下さい。



1月22日 核兵器禁止条約がいよいよ発効

2020年10月24日、発効に必要な50カ国・地域に達しました。90日後の今月22日条約が発効し、核兵器は国際法違反となります。

核兵器は悪の烙印

核兵器禁止条約は、核兵器の非人道性をきびしく告発し、核兵器の開発・実験・生産、保有から使用と威嚇にいたるまですべてを禁止し、核兵器に「悪の烙印」を押すとともに、完全廃絶までの道筋を明記しています。

政府は条約に署名・批准を!

世界で唯一、戦争被ばく国である日本政府は、核兵器禁止条約に反対し続けています。アメリカの核兵器に安全保障を委ね、「核の傘」に依存する政府は「アプロウチが違う」などと言って禁止条約に背を向けているのです。日本が禁止条約に参加することは当たり前という状況を築いていくことが、今求められています。原水爆禁止栃木県協議会では、1月23日二荒山神社前において、発効を記念した街頭宣伝行動を呼びかけています。

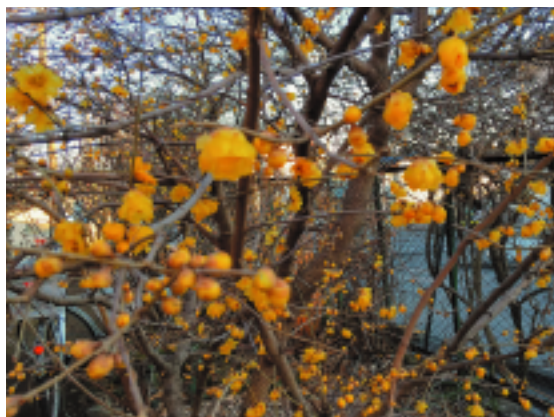
コロナに負けるな

学生支援 県内でも



小山市内で行われた「もってけ市」

料支援なんてうそだと思っただがきてみてよかった。友だちにも知らせた」と嬉しそうに品物を選んでいく人もいました。宇都宮からも新日本婦人の会や、民青同盟のメンバーが市内での支援に向けて参加しました。



庭にロウバイが咲きました

花ことばは「慈愛」
親が子を慈しむような深い愛情を意味する。名前の由来は様々で中国名「蠟梅(ラーメイ)」を日本語読みしたもの。
(写真提供荒川恒男さん)

日本民主青年同盟栃木県委員会は小山市内で、このほど食料支援「もってけ市」を開きました。コロナ禍の中で、アルバイト先の仕事がなくなり、生活が一変してしまった学生さんを何とか支援しようと、民青同盟のメンバーが中心となり物資を集め準備してきました。当日は学生を中心に30名ほどが会場に訪れました。地域の方が提供してくれた、米やレトルト食品、野菜、日用品などを無料で配布しました。訪れた学生の中には「バイトが減って以前の半分以下」と話す人もいました。また、「食

日本共産党宇都宮市議員団 定例無料

市政・法律なんでも相談会

雇用問題・多重債務・生活保護・年金・国保・住宅
道路・交通安全・その他なんでも・・・

◇日時 2月13日(土) 午後2~4時
3月13日(土)

◇会場 宇都宮市総合
コミュニティーセンター

◇連絡先 日中 TEL632-2622 (党市議員団控室)
土・日・夜間 TEL634-8722 (党市委員会)

相談ご希望の方はできる限り事前にご連絡をお願いします。秘密厳守します。弁護士が協力します。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更または中止となる場合もあります。必ず事前にお問い合わせ下さい。